

# 生涯教育研修活動報告書

病理検査研究班

- 1 実施日時：2023年10月13日 18時00分～19時30分
- 2 会場：Web開催 教科・点数：専門教科-20点
- 3 主題：病理標本のデジタル化 ～デジタルパソロジーの現状から今後の展望～
- 4 講師：佐藤 史隆（浜松ホトニクス株式会社）  
大山 絵里香（埼玉県済生会加須病院）  
河原 明菜（医療法人社団誠馨会 千葉メディカルセンター 病理診断科）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 110名 賛助会員 0名 非会員 2名
- 7 出席した研究班班員：関口久男 森田繁 高橋俊介 小島朋子 細沼佑介 今村尚貴  
遠山人成 松本祐弥 三鍋慎也

## 8 研修内容の概要・感想など

近年の情報通信やデジタル画像技術の向上により、病理分野においてもその技術を応用したデジタルパソロジーを取り入れようという動きがみられる。今回は「病理標本のデジタル化 ～デジタルパソロジーの現状から今後の展望～」をテーマに、バーチャルスライドの活用やデジタルパソロジーの導入経験、今後の展望について研修会を開催した。

佐藤氏は「バーチャルスライドスキャナの仕組み・機能について」と題し解説した。バーチャルスライドの活用としては、①病理支援システムとの連携 ②外部への配信 ③解析ソフトウェアの活用 ④教育への応用等、工夫次第で多方面での応用が可能であるとのことであった。一方で、ガラス標本のスキャン時には、カバーガラスの浮き、封入剤過多、ゴミ・ホコリの混入、指紋の付着等に注意しないと美しいデジタル画像を構築することができないとのこと、デジタル化においても従来の基本的な標本作製技術が必要であることがわかった。

大山氏は「当院におけるデジタルパソロジーの導入から運用まで」と題し解説した。病理医の退職に伴いデジタルパソロジーを導入したとのこと、導入による利点としては、①術中迅速診断が随時可能 ②稀少症例のコンサルテーションが可能 ③報告時間の短縮 ④臨床医も容易に閲覧可能 ⑤褪色しない等があるとのことであった。改善点とし

では、①デジタル化ファイルを保存するハードディスクのコスト ②ピロリ菌が確認しづらい等が挙げられた。デジタルパソロジーを実際に有効活用している状況がわかり参考となった。

河原医師は「デジタルパソロジーの現状と今後の展望」と題し解説した。医学界における病理医の不足は以前から指摘されており、それに伴う医療の質の低下が問題視されてきている。それを解消する一つ的手段としてデジタルパソロジーが有用であるとのことである。そして、単に病理医の不足を補うだけでなく、教育や診断精度の向上、いわゆる「ひとり病理医」のフレキシブルな働き方をサポートする等、活用の幅は広がるとのことであった。

病理検査技師の検査室運営にとっても、デジタルパソロジーの普及は、「ガラス標本の保管」というスペース的にも労力的にも大きな負荷が軽減されたり、標本貸出業務の簡便化に繋がる等、業務効率化をもたらしてくれることが推測される。今回の研修会が、デジタルパソロジー導入検討の参考となれば幸いである。

提出日：2023年10月14日

文責：三鍋慎也